

## 釧路から阿寒湖を経て弟子屈温泉

7月21日

“濃霧の街”“挽歌の街”釧路から左右の荒野そして、その中に点々と咲く原色の花に目をうばわれている私達をのせたバスは、そろばん道路をまつしぐらに進む。このあたり一体が大楽毛原野といわれる所である。その忘れられた広漠たる未開地に住む頭部だけに赤色部をもつ優雅な丹頂鶴は印象的だつた。荒々しさと可憐・きびしさと優しさ、これらの調和が自然の中にいくらか見い出せるのがこの地の特徴である。やがて待望の北海道最初の湖阿寒湖に到着、昼食、記念撮影をすませ、さてやつと阿寒湖遊覧となつた。乗船するや否や、私達は夢中で湖水を見つめた。水面に浮ぶマリモを見つけようとしてである。しかし、誰一人としてそれらしいものを発見することは出来なかつた。どうしたのだろう……。その内、船は中の島に着いた。「皆様下船してマリモを見に行きましょう。」というのである。そこでいそいそと降りて行つた。マリモにお目にかかる段になつて、私達は落胆した。そのマリモたるや、水槽の中にかくまわれているのであつた。「阿寒の山の湖に浮ぶまりも」「アイヌのメノコと若者の悲しい恋の物語をひめた緑のマリモ」と私達のマリモにかけたロマンティックな夢は、その瞬間泡の様に消え去つてしまつたのである。「あゝ、哀れなマリモよ」とその時女子大生達は心の中でそう叫んだであらう。

湖の周囲の雌阿寒岳・雄阿寒岳はその日は消沈した私達をなくさめるかの様に、くつきりと姿を見せていた。それはけだかく、雄大な姿であつた。再び私達はバスの人となる。さきほどのそろばん道路とは相反して、すばらしい直線道路である。どこまでもどこまでも白い道はまつすぐに続く。左右の荒野と共に。北海道ならではのダイナミックな規模である。明日は最も期待する摩周湖である。神秘の湖摩周湖。晴れた日でもなかなかその姿を現わさないという。その朝の為に私達はガイドさんの教えに従い珍妙なおまじないを心の中で三回となえる事になつた。「カムイポリカアツホイヨー。」

やがて横綱大鵬さんの郷里弟子屈に入り、すばらしいグランドホテルについた。「やーえーホテルやなー」「すばらしいワー」と歎嘆する乙女等の声を聞いてか聞かずか、バスはくるつとまわつてその前の少しこじんまりした旅館に私達を運んだ。今夜の宿摩周閣である。美しい夕焼け雲であつた。